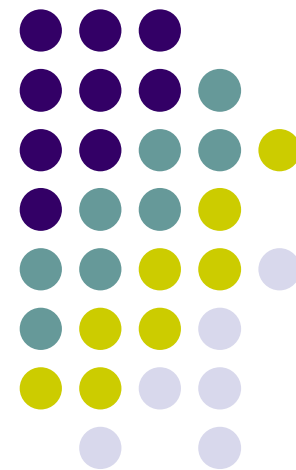


バハイの学術とは何か：再考察

What is Baha'i Scholarship: Revisited

2007年度 ABS大会、東京
ABS Annual Conference, Tokyo,
2007



バハイの学術とは何か:

第1回大会より

**What is Baha'i Scholarship:
Review from the 1st Conference**



バハイ学術の定義

Definitions of Baha'i Scholarship 1



- バハオラの教えを深く理解する(守護者、1943.10.21)
- バハオラの教えを現代の思想や問題に関連づける(同上)
- 正式教育、あるいは高学歴の者に限定された活動ではない
- ただし、特殊な才能を持つメンバーには特別な奨励が必要。
- 忠告：科学的証明のみを重視する現代社会の傾向に妥協するのは危険(万国正義院：1983.7.7.)。
- →バハオラの教えを神の啓示ではなく、単なる国際理解や社会運動にしてしまわないこと。
- 人間の知には限界がある。
- 解釈にあたっては聖約に忠実であること。(万国正義院：1966.3.27)

バハイ学術の定義

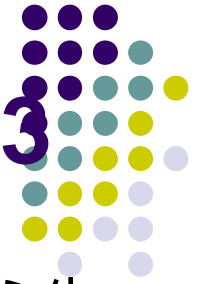
Definitions of Baha'i Scholarship 2



- 万国正義院の目的を推進する。
- バハオラの真理を普及させる。
- 問題解決につなげる。
- 協議と全員参加により進める。
- 優秀性を追求する。
- 日本人バハイの学者を育む。
- 知的学問から霊的学問へ。
- 謙虚さを忘れぬこと。
- 知的プライドとの格闘。

バハイ学術の定義

Definitions of Baha'i Scholarship 3



- 物質の科学: 物理学、生物学、社会学
- 精神の科学: 心理学、道徳学、神学、祈り、人間関係論
- 「科学」: 物事の実在性から生じた関係を研究する分野。物質やエネルギーの特質や特徴、その相互作用を研究する分野(アブドル・バハ)。→自然の法則→テクノロジーへの応用
- 「宗教」: 物事の実在性から生じた関係を発見する過程(アブドル・バハ)。精神的な見地からアプローチする。

バハイ学術の定義 Definitions of Baha'i Scholarship 4



- 「科学」:物事の実在性から生じた関係を研究する分野。物質やエネルギーの特質や特徴、その相互作用を研究する分野(アブドル・バハ)。→自然の法則→テクノロジーへの応用
- 「宗教」:物事の実在性から生じた関係を発見する過程(アブドル・バハ)。精神的な見地からアプローチする。

バハイ学術の定義 Definitions of Baha'i Scholarship 5



- 科学を精神化させる：科学を人類の幸福のために使う。悪用を防ぐ。
- 科学的方法を宗教に適用させる：盲目・迷信・頑迷をなくす。

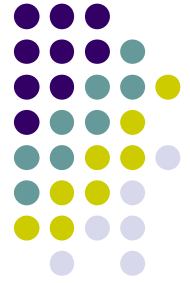
バハイ学術の定義 Definitions of Baha'i Scholarship 6



- 概念的アプローチ: 平和の秘訣; 正義・平等の意義
- 応用的アプローチ: 世界的バハイ共同体の特徴、意義、プロセス; パイオニア活動の意味合い; 精神行政会の設立の意義

日本バハイABSの歴史

History of the ABS-Japan



日本バハイABSの歴史



- 1991年発足
- 今年(2007年)で15回目の全国大会実施
- 会員数 = 49(2007年9月現在) (J=23,NJ=26)

ABS研究の歴史 1991-1993



- 1991: バハイ学術とは
- バハイ学術(J)
- バハイ学術: ホセイン・ダネシュ(E)
- 医学における倫理(J)
- 初期バハイ信教の歴史(E)
- バハイの俳句と注釈(J)
- ユネスコ活動を通じて見た日本の社会(J)
- 社会的変化の新しいパラダイム(E)
- 科学対宗教: 歴史を見て(E)
- 仏典の研究(E)
- 協議: 秩序の基盤(E)
- 万国共通語とバイリンガリズム(JE)
- 極端な貧困をなくすための方法(E)
- 精神的価値とバハイ教育(E)

- 1992
- リヒテンシュタイン王国アルフレッド王子「未来学とバハオラのビジョン」

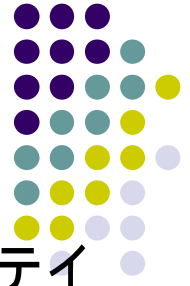
- 1993: バハオラのビジョン
- モハジャ先生の思い出 (J)
- 「アグダスの書」入門(E)
- 近代主義の挫折と新世界秩序の出現(E) ピエール・モケ
- 「能」に現れた日本人の死生観
- 初期のアイヌバハイ森竹竹市と長男梅が枝一智を思い出して(E)
- アブドル・バハの聖典に見える動的なシステムである学問(JE)
- 開発NGOとしてのバハイ共同体(E)
- 日本バハイ共同体の言語障壁(J)
- 日本バハイユース全国委員会の構造と機能(J)
- あるバハイ歴史小説の創造(E)

ABS研究の歴史 1994-1995



- 1994: 21世紀へ向けて: 危機と再生
- 「アグダス」の書の紹介(J)
- 「アグダス」の書の質疑応答編(JE)
- バハイ担当世界平和大学講座(E)
- 2000年までに世界平和を達成するために(E) ジョン・ハドルストン
- 「アグダス」の書: バハイの法、正当性と世界秩序(E)
- 多文化コミュニケーション(J)
- 弥勒(J)
- バハイと幸福の科学比較研究(J)
- バハイと日本の風土(J)
- 義務教育の普及と世界市民(E)
- 精神的変革(E)
- 1995: 家庭、共同体、世界
- 家族と共同体(J)
- 人間関係の一体性と全体性(E)
- 人間と夢(J)
- 太平洋地域における家族と共同体(E)
- 人間の7つのシステム(E) エレイン・マックレー
- インターネット(JE)
- 日本: 国際社会における教育(JE)
- ブロムフィールド夫人: 2言語劇(JE)

ABS研究の歴史 1996-1997



- 1996: 家庭と社会における精神的教育
- 日本の初等教育 (J)
- 教育の目的 (J)
- バハイ教育機関における理論と教授法(E)
- 精神性と教育におけるその意義(E) ステーブン・ホール
- 精神的教育を目指すカリキュラム(E)
- バハイコンピュータ・コミュニケーション・センター (E)
- 1997: 教育機関、コミュニティの発展と能力の開発
- 共同体作りへの取り組み(J)
- コミュニティ発展の基盤(E)
- バハイ共同体における芸術家(E)
- 伝統芸能の精神性: 主として能(J)
- 茶の湯の持つ精神性(J)

ABS研究の歴史 1998-2000



- 1998: アジア太平洋軸: 文化の多様性、発展と人間の可能性
- 多様性の中の一致(J)
- サハリンのバハイの歴史(E)
- 東西にある精神的な伝統の間に和合をもたらすには(E)
アンジャム・カシード
- 大陸倫理(E)
- 道徳性開発の強化(E)
- 2000: 日本と真の平和への道
- 世界平和構築に日本が果たす役割(J)
- 平和に対する日本の取り組みに日本バハイ共同体はどう援助できるか(J)
- 地球規模の行政管理(E) グラハム・ハサール
- 日本バハイ共同体: 20世紀の回顧と21世紀への展望(J)
- 英語教育と世界平和(J)
- 神戸バハイ共同体の社会的認知(J)
- バハイ聖典に見る生物的心理的・社会的健康と精神的基盤(E)
- バハイでない社会でバハイの子ども教育(パネル)(J)
- シンポジウム: 日本と真の平和への道(J)
- ニューアイルランドとパプアニューギニアでのバハイ共同体の土着化(E)

ABS研究の歴史 2001-2002



- 2001: 精神性と学術
- BASIC: バハイ学術の統合と関連づけ(E)
- 宇宙と人間の神秘(E) ケリー・ケヌック
- 神の言葉と言葉の持つ力(J)
- バハイ信教と薔薇の花(J)
- 日本の和とバハイの和(J)
- 精神的な足跡: バーナードリーチ(E)
- 小平和の徴(J)
- 精神性と学術性: 21世紀への道(J)
- 日本人の精神性(J)
- バハイの和と神仏習合(J)
- 仏教を変えた日本五聖(J)
- 2002: 道德教育
- 「英雄の復活: バハイの視点から見た一考察」 Revival of True Heroism: A Baha'i Perspective (JE)
- 道德的教育 Moral Education in Community (Garrett Brisdon) (E)
- 道德教育の一考察 A Moral Education Study (E)
- 道德教育に関するABS大会を開く重要性 The Significance of the ABS Conference on Moral Education (E)
- 道德的リーダーシップに関する教育プロジェクト The Award Winning International Educational Initiatives: K-12 Global Curriculum—A Path towards Moral Leadership (E)
- 比喩としてのテーマパーク Theme Park as Metaphor: Adventures of the Spirit (E)

ABS研究の歴史 2003-2004



- 2003: 精神的成長における芸術の役割
- 「祈りとしての絵画」(E)
- 「隠喩とイヌイットの子どもたちの芸術」(E)
- 「精神的変革と演劇という芸術」(J)
- 「あなたの目の前での変革: 舞台上で」(E)
- 「翻訳という芸術」(J)
- 2004: 人類の繁栄
- SARS (J)
- 国際共通語 (J)
- ジュニアユース教育 (J)
- バハイとビジネス (E)
- ルヒコースに関するアンケート調査報告 (E)
- 人類の繁栄と家庭での美德 (J)

ABS研究の歴史 2005-2006



- 2005:
- 大黒柱、床の間、縁側：日本の伝統的建築における3つの精神的象徴 (E)
- いじめについて (J)
- 武士道と日本の伝統的道德教育 (J)
- 日本の書道 (J)
- 「アフリカの精神的再生～文化的環境的側面より」(E) ジョセフ・ンガ
- 新しい啓示からみた中国と日本における道德教育の歴史的ルーツ (E)
- 仏教と恩恵と祝福の概念 (J)
- 茶道と日本の道德教育 (J)
- 日本舞踊(披露)
- 公開講演：日本とアフリカにおける伝統文化と精神性 (JE)
- 仏教とバハイ信教についてのパネル・ディスカッション (JE)
- 2006：道德教育：家庭・学校・共同体の連携
- 学校教育の危機 (J)
- 武士道と日本の道德的教育 (JE)
- 道德教育：家庭と学校と地域社会の連携 (E)
- 「教育の魂」(E) ダン・ヴェランコート
- 維持可能な開発のための教育：道德的な必要条件 (E)
- 子育て：従順さをしつける方法 (E)
- 各種発表：音楽、紙芝居、子どもグループ、ジュニアユースグループ
- ダン・ヴェランコート「バハイ教育のビジョン：マックスエル・バハイスクールの事例」(E)
- 男子に焦点をあてた徳育 (E)
- 肥沃な三日月と宗教の源泉 (E)

ABS研究の歴史 2007



- 2007: 前進する文明に向けて
- 迫害される同胞を助けて: バハイの人権活動 (J)
- バハイ学術とは何か (J)
- 文明と宗教的体験の普遍性 (E)
- 真理の独立探求 (J)
- ビジネス界とバハイの原則 (J)
- 公開講演 メアリー野口: 「日本の教育」 ~ バハイの原則はいかに日本の教育制度を助けるか (J)
- 家族とバハイ (E)
- 宗教に対する日本人の態度 (J)
- あるコンサートのプロデュースにおける和合と協議 (J)

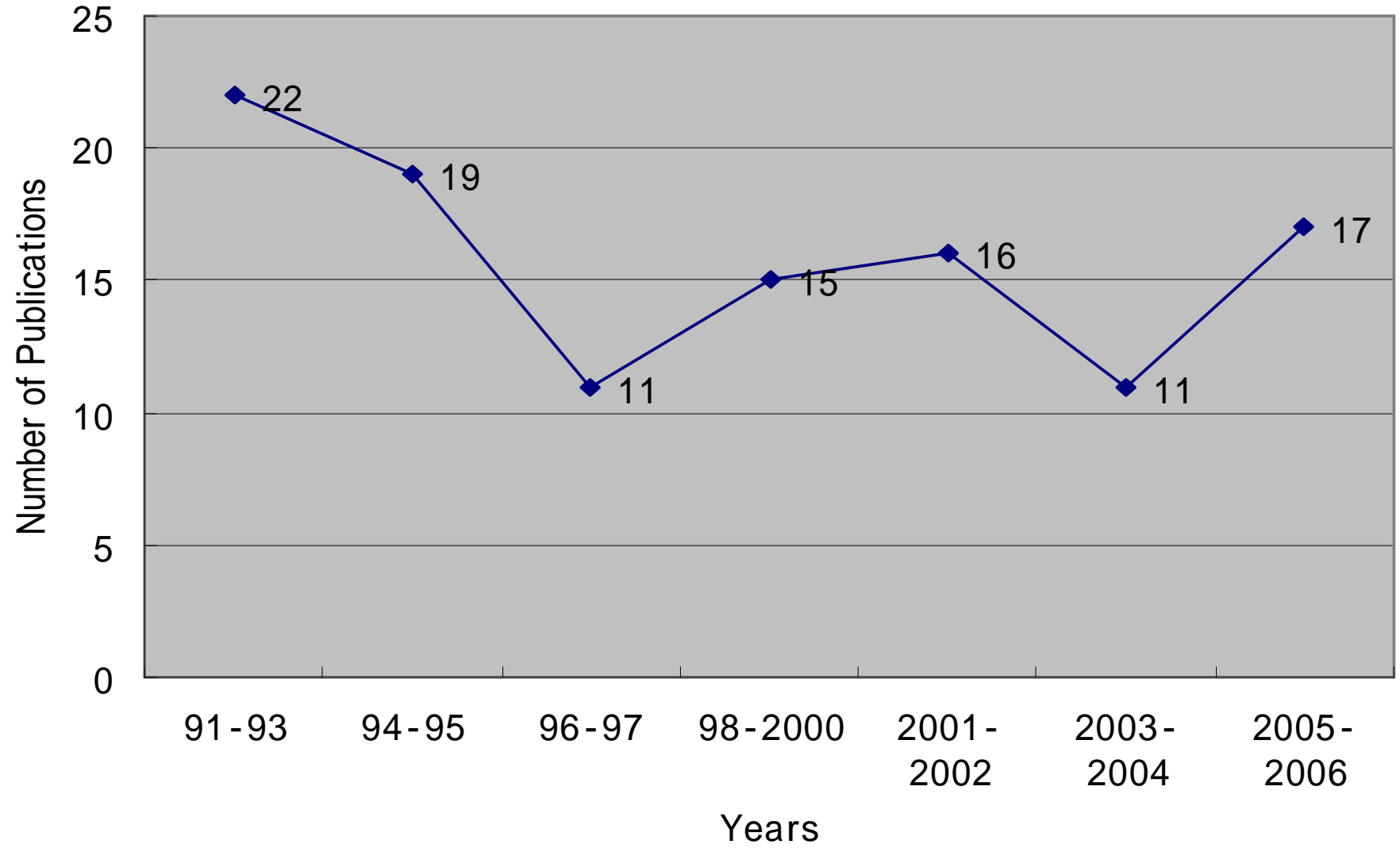
ABS研究:分析



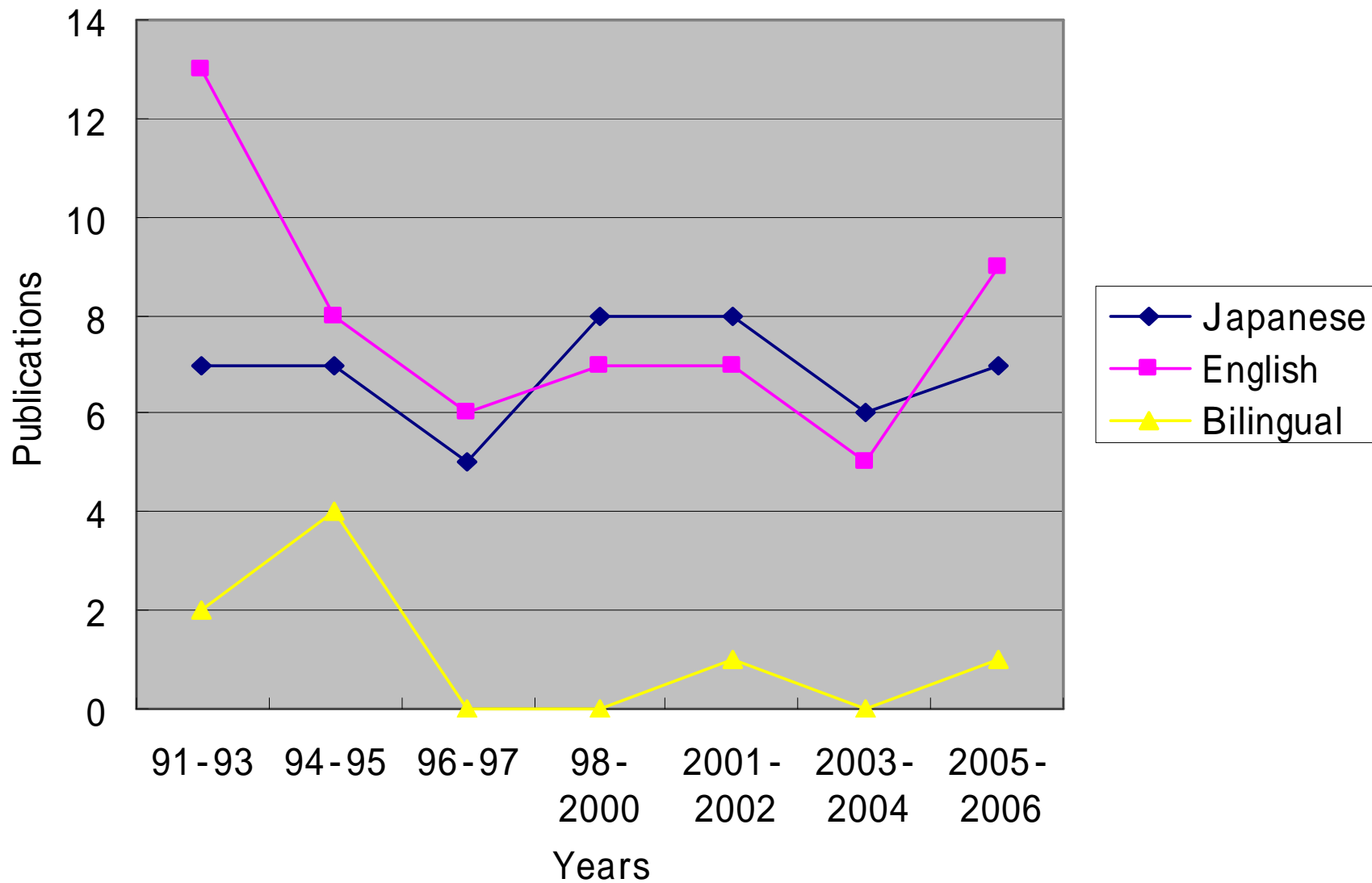
- 日本語発表: 48
- 英語発表: 57
- バイリンガル発表: 8
- 理系: 7
- 文系: 98
- 両方: 6
- バハイ信教そのものの研究:
24
- バハイを関連づけた研究: 87

- 招待講演者: 米国 = 5名、カナダ = 4名、アフリカ = 1名、インド = 1名

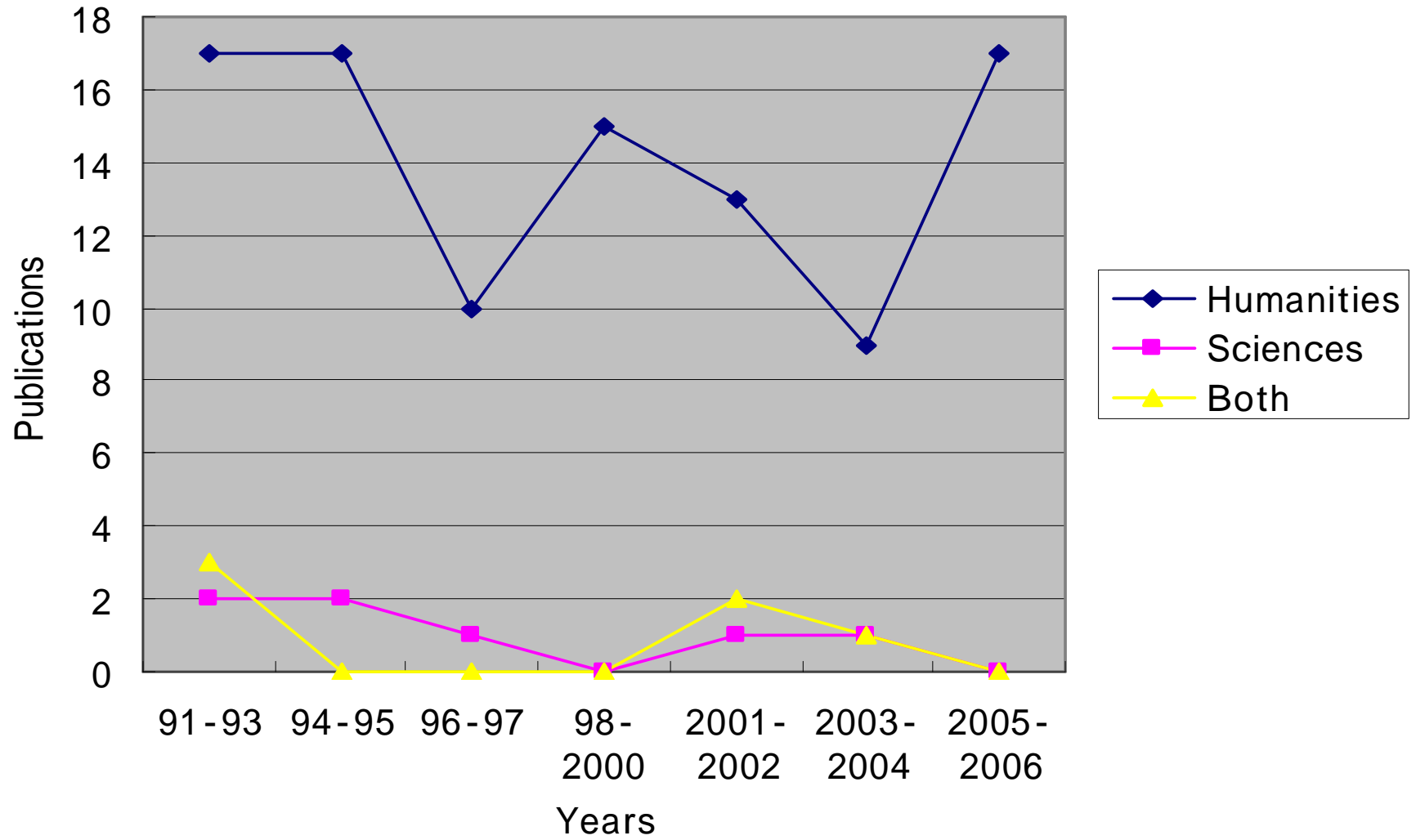
Total Number of ABS Publications



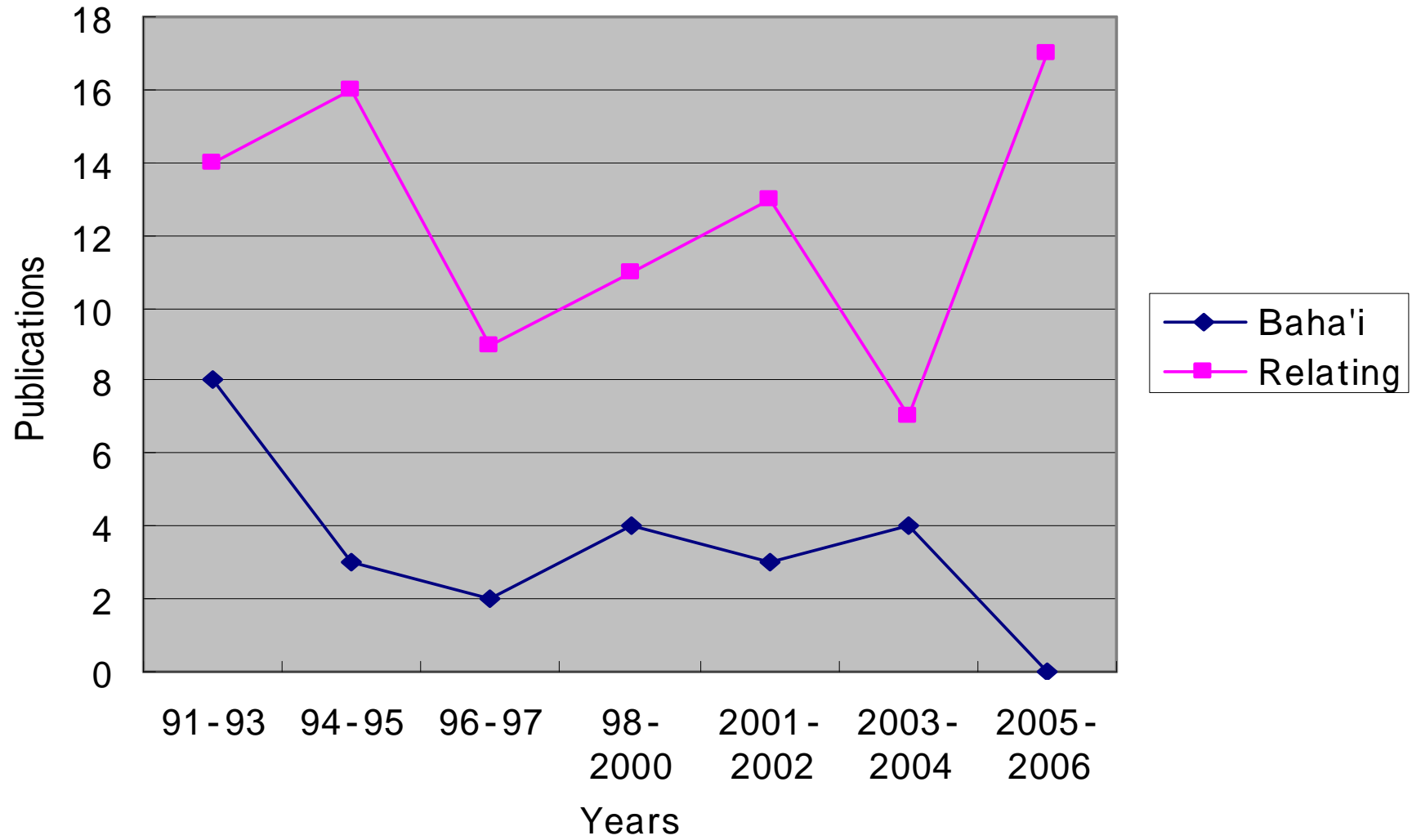
Number of Publications by Language



Publications by Fields of Study



Number of Publications by Categories

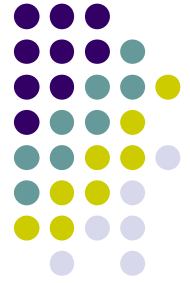


何を研究すべきか What to Study?



- バハイの教義そのもの
- バハイの歴史
- (基礎研究)
- 聖典研究
- 歴史
- 教義
- 法
- 行政機構
- バハイを現代思想や問題に関連づけたもの(応用研究)

何を研究すべきか What to Study?



- バハイの歴史: 日本バハイの歴史、山本寛一氏、藤田佐一郎氏
- インステイチュート・プロセス
- 5年計画
- ルヒコースに関する教育学的研究
- 聖典研究: 「アグダス」、「イガン」、「隠されたる言葉」
- 法: ホゴゴラ、断食、祈り
- 行政機構
- 神学的疑問
- 教育問題
- 宇宙物理学: 宇宙の神秘
- 量子力学: 物質界と精神界との関係
- 超心理学・精神医学: 魂の性質、死後の世界、輪廻転生
- 死亡学(サナトロジー)

学問体系 System of Sciences



- 人文科学
- 哲学
- 倫理学
- 宗教学
- 言語学
- 文学
- 美学
- 芸術学
- 歴史学
- 考古学
- 地理学 (自然地理は自然科学に分類される)
- 人類学 (自然人類学は自然科学に分類される)
- 民俗学
- 心理学 (心理生理学は自然科学に分類される)

- 社会科学
- 統治系
- 法学
- 政治学
- 政策学 (オペレーションズリサーチという側面が有る場合には応用科学に分類)
- 行政学
- 経済系
- 経済学
- 経営学
- 商学
- 会計学
- 一般系
- 社会学

- 自然科学
- 数学
- 理学
 - 物理学
 - 化学
 - 生物学
 - 地学
 - 天文学
- 計算機科学

- 応用科学の例
- 医学 - 伝統医学 - 中医学
- 解剖学
- 生理学
- 獣医学
- 栄養学
- 看護学
- 工学 - 機械工学、経営工学、原子力工学、材料工学、情報工学、化学工学、生物工学、電気工学、電子工学、土木工学、建築学、他
- 歯科学
- 農学 - 林学 - 水産学
- 薬学
- 軍事学 - 軍学
- 教育学 (教育科学)

- 総合科学・学際分野の例
- 環境学
- 情報学
- 経営情報学
- 社会福祉学
- 性科学
- 家政学
- 博物学

学問体系



● 現代神学

- [聖書学 \(Exegetical Theology\)](#) [旧約](#)・[新約聖書](#)・[正典論 \(Canonicity\)](#) を研究する学問。
 - [解釈学 \(hermeneutics\)](#) 解釈や釈義の基礎となる原理の研究。(クワドリガQuadrigeなど。)
- [歴史神学 \(Historical Theology\)](#)([キリスト教史](#)・[教会史](#)) キリスト教の歴史を考察
- [組織神学 \(Systematic Theology\)](#)
 - [教義学 \(dogmatic theology\)](#) [神論](#)・[キリスト論 \(Christology\)](#)・[三位一体論 \(The Trinity\)](#)、[教会論 \(ecclesiology\)](#)([教職論](#)・[会衆論](#))、[サクラメント論 \(洗礼論](#)・[聖餐論](#)など)、[救済論 \(soteriology\)](#) [終末論 \(eschatology\)](#)、[使徒信宗 / ニカイア・コンスタンティノポリス信宗](#)など信仰圏案の研究。
 - [弁証学 \(apologetics\)](#) 異教世界からの批判に対して、キリスト教信仰と教義の真理性を擁護するための研究。
- [実践神学 \(Practical Theology\)](#) ([牧会神学](#))
 - [道徳神学 \(Moral Theology\)](#) ([キリスト教倫理 \(Christian Ethics\)](#)・[決疑論 \(Casuistry\)](#)) 倫理・規範体系の研究。
 - [説教学 \(Homiletics\)](#) 説教がキリスト教信仰において果たす役割について研究をして、説教の方法について教授をする。
 - [典礼学 \(Liturgics\)](#) 典礼の意味内容・典礼史の研究。なお、これはカトリックでの呼称で、礼拝学がプロテスタントでの呼称。
 - [教会法](#) 教会の基本法である教会法の研究。カトリック教会の教会法は[カノン法 \(canon law\)](#)。
 - [司牧学](#) キリスト教生活の実践的な方法の研究。なお、これはカトリックでの呼称で、牧会学がプロテスタントでの呼称。
 - [宣教学 \(Missiology\)](#) (伝道論) 伝道・宣教の仕方について研究する。
 - [キリスト教教育学 \(Christian Education\)](#)
 - [解放の神学](#): 差別されている人の視点から自ら解放するとともに、差別している人の両方を解放することを志向する。苦難を表す前冠(ケイカン)の神学と呼ばれる場合もある。部落差別解放問題、族差別解放問題、障害者差別問題、路上生活者の人権等
- [哲学的神学](#) ([トマス・アキナスの神の存在証明](#)など。)
- [霊性神学 \(神秘神学\)](#)
- その他 (未分類)
- [自由主義神学](#)
 - [ケリュグマ \(kerygma\)](#)
 - [史的イエス \(historical Jesus\)](#)
- [弁証法神学 \(Neo-orthodoxy\)](#) ([危機神学](#))
- [教父学 \(Patrology\)](#)
- [神義論 \(theodicy\)](#)
- [マリア神学](#)
- [フェミニスト神学](#):

● 哲学

- [西洋哲学と東洋哲学](#)
- [古代ギリシア哲学](#)、[ドイツ観念論](#)、[フランス現代思想](#)、[インド哲学](#)、など地域や時代による区分
- [大陸哲学と分析哲学](#)
- [形而上学](#) 存在とは何か、存在の本質などを問うもの
- [認識論](#) 認識について検討するもの
- [倫理学](#) 倫理・道徳について検討するもの
- [美学](#) 美や芸術をめぐる価値判断の方法や、その根拠について検討するもの
- [哲学史](#) 哲学思想の歴史的な変遷を研究するもの
- [言語哲学](#) 言語とは何か、言葉の正しい意味の確定や物事の正しい表現はどのように可能なのか、などを検討するもの
- [自然哲学](#) 自然・物質の本質的原理について形而上学的に検討するもの
- [科学哲学](#) 科学的な研究について検討するもの
- [物理哲学](#) 空間、時間、物質など物理学で用いる基本概念について検討するもの
- [論理哲学](#) 論理について検討するもの
- [心身問題の哲学](#) 人間の意識や心と身体の関係、自由意志の有無などについて検討するもの
- [宗教哲学](#) 神の存在等、宗教的概念について検討するもの
- [政治哲学](#) 政治、様々な統治のあり方、政治的正義、政治的自由、自然法、などについて検討するもの
- [法哲学](#) 法について哲学的に検討するもの
- [戦争哲学](#) [戦争](#)について考察するもの
- [歴史哲学](#) 歴史の定義、客観性についての考察、記述方法などを行う。
- [教育哲学](#) 教育の目的、教育や学習の方法論について検討するもの
- [生命倫理学](#) 医療行為、環境破壊、死刑など生命にまつわる物事について、その善悪をめぐる判断やその根拠について検討するもの

どのように研究すべきか



- バハイ信教はその方法論において科学的である (Shoghi Effendi, *World Order of Baha'u'llah*, xi)。
- 偏見をなくし、先入観を捨てる。
- 謙虚であること。
- 観察・現象
- 推論 Inference/reasoning
- 帰納 (Induction: 個別例から不変的法則へ)
- 演繹 (Deduction: 普遍的原則から個別を)
- 実験
- 思考実験
- 確率
- 追試・再現性: 他者による反復研究
- 論文・査読: 発表・公表

どのように研究すべきか: 研究法



- 文献学
- 内観法
- 歴史的描写的
- 質問紙法(アンケート)
- 民族誌学的(エスノグラフィ)
- 事例研究
- 観察
- 面接
- フィールドワーク
- 準実験法
- 実験法
- Literature
- Introspection
- Historical description
- Questionnaire survey
- Ethnography
- Case studies
- Observation
- Interviews
- Field work/Naturalistic inquiry
- Quasi-experiment
- True experiment

バハイの学術と現行の学術



- バハイ・パラダイム
- 神の存在
- 神の不可知性
- 神の顕示者とその啓示
- 精神界と魂の存在
- 精神界と物質界の関係
- 常に前進する文明の推進: 精神文明と物質文明
- 真理の探究
- バハオラの啓示
- 聖約
- 人生の目的
- 理論的枠組み: 「理論」には流行があり、学派がある。
- 統一的枠組みの欠如。
- 現代は物質的・唯物的傾向が強い。
- 職業としての学問: 教授は研究業績のため? 学生は単位取得のため?
- エビデンス中心
- 「実証可能」または「反証明可能」なもののみが研究の対象
- 内観法は時代遅れ?
- 人間学も統計的手法で計測する

心理学の例

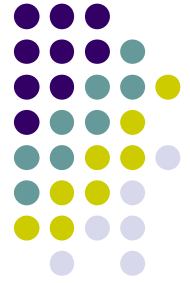


プロだけによる学術ではない



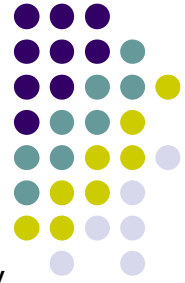
- 誰でもできる学術
- 誰もが真理探究に貢献できる
- 協議の原則

プロ



- いわゆる「学会」
- プロとしての学術
- 専門職の訓練
- 学位の取得
- 法的な枠組み
- 専門用語の確立
- バハイの学術
- 誰でもできる学術
- 誰もが真理探究に貢献できる
- 協議の原則

専門性



- 一般の学術からも学ぶ。バハイを当てはめる:両者は補足的。
- 学校や大学での勉学の間、バハイの若者らは、ある学科について、教師よりも深い見識を持ち合わせているという、変わった、少し気まずい境遇に出くわすかもしれません。バハオラの教えは、人間の生活や知識において、非常に多くの面に光明を投じていますので、バハイはとしては.....与えられた情報を盲目的に受け入れるのではなく、それについてまず、よく考える習慣を学ばなくてはなりません。バハイは、この時代の神の啓示を知るといって有利な点があります。そしてそれは、現代思想家を悩ませている非常に多くの問題に、サーチライト[探照灯]の如く光を投げかけているのです。したがってバハイは、正しい謙虚な態度を教師らに示しつつも、聞いたことを常にバハイの教えに関連させながら、回りの人々からあらゆることを学ぶ能力を養わねばなりません。なぜなら、バハイの教えは、人間的な誤りという粕(かす)から、金を選び分けることを可能にしてくれるからです。(万国正義院からあらゆる国のバハイユースへの手紙より、6/10/66: *Wellsp.ring of Guidance* , pp. 95-96)
- Learn from scholarship of general society. Apply Baha'i scholarship to general scholarship: Two are complementary.
- "When studying at school or university Bahá'í youth will often find themselves in the unusual and slightly embarrassing position of having a more profound insight into a subject than their instructors. The Teachings of Bahá'u'lláh throw light on so many aspects of human life and knowledge that a Bahá'í must learn. . . to weigh the information that is given to him rather than to accept it blindly. A Bahá'í has the advantage of the Divine Revelation for this age, which shines like a searchlight on so many problems that baffle modern thinkers; he must therefore develop the ability to learn everything from those around him, showing proper humility before his teachers, but always relating what he hears to the Bahá'í teachings, for they will enable him to sort out the gold from the dross of human error."
- (From the Universal House of Justice to Bahá'í Youth in Every Land, 6/10/ 66: *Wellspring of Guidance*, pp. 95-96)
-

国際バハイ学術ジャーナル

Journal of International Baha'i Studies



- 誰でも参加できる
- 英語や欧州語に限定せず、多様な言語で発行
- ただし、レフリーをつける分野もある：「イスラム学」など→バハイの名を守るため

課題とチャレンジ

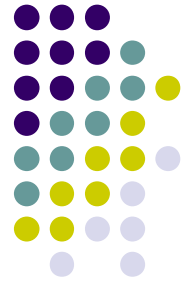
Issues & Challenges



- 日本語文献の不足
- 翻訳の進行状況：聖典（バブ、バハオラ、アブドル・バハ）、守護者、万国正義院、編纂書、一般書
- オンライン図書館の開発
- バイリンガルの増加
- 英語使用者の増加
- 日本語による研究
- 日本語による発表
- 日本人による参加
- 「学者」以外による参加
- 底辺を広げる必要あり
- Lack of Baha'i literature in Japanese
- Translation in progress
- Development of On-Line Library
- Increase in bilinguals
- Increase in English users

課題とチャレンジ 2

英語のバハイ学術世界の探訪
海外の研究者との交流と協力(インターネットの活用)
海外のABS大会への参加(お金?タイミング?)
バハイ共同体外の研究者との交流と提携(ABSサイトの更なる開発)
日本の大学でのカレッジクラブ
活動? 大学生は何処に?



課題とチャレンジ 3



* 日本語オンリーのABS大会を催してはどうか？

* 代わりに英語オンリーのABS大会は？

* 大学生や院生による、大学生や院生を対象にしたABS大会は？

* * いわゆる職業的な学者だけでなく、学生や一般のバハイ、あるいは遠距離のためになかなか参加できない人による参加を促すため、大会収録だけでなく、紀要を発行しては？ バハイニュースなどへの投稿は？ ABSニュースレターの活用？

回想と未来展望



- バハイ学術は成長した。
- 5年計画など現行のプランを推進する研究発表を奨励したい。→ 具体的な問題解決につなげる。
- 理系の研究を増やし、科学系統の人たちにもアピールする。
- 概念的基礎研究にも力を入れる？
- 知的学問から霊的学問へ。
- 日本語文献の開発を進める。→ 翻訳、編纂書、紹介書、テーマ別の著作。
- 日本人バハイの学者は育まれたか？
- 若い学者、学生を育む。
- 学業にあたってバハイの概念を適用する方法を学ぶ。
- 逆に、学業で学ぶ新しい知識を用いてバハイの概念を理解する。